

令和6年（2024年）度行政評価シート【個表】 令和 6 年 6 月 21 日

評価対象事業		評価者	発達支援室長 貴田 卓男	
こども-34	発達支援サポートシステム推進事業	■ 自治事務	主管課	発達支援室
重点事業		□ 法定受託事務	関連課	教育指導課・保育課・こども支援課
総合計画上の位置付け	分野	子育て	施策の方針	子育て家庭への支援

1 事業の目的

対象	発達に課題を持つ子どもの保護者及び支援者等
意図	発達に課題を持つ子どもが適切な支援を受けることができるよう、発達障害などの理解及び対応のスキルアップを図るため。
効果	療育と教育の連携を強化し、地域における幼児期から学齢期までライフステージに応じた継続した支援を行うことで鎌倉市子ども・子育てきらきらプランの主要施策「障害のある子どもと家庭への支援」の充実を図る。

2 令和5年(2023年)度を実施した事業の概要

・発達支援に関する情報共有と支援技術の向上を目指すサポーター養成講座を体系的に開催した。	
・発達支援委員会、園長会等と連携し、保育現場や学校現場における講座受講者の人材活用を推進した。	
・地域での子育て支援の充実を図るため、サポーターを有償ボランティアから会計年度任用職員に位置付け実施した。	

事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和5年度 指標(実績値/目標値) 事業費(決算/当初)(千円)		令和6年度 指標(目標値) 予算額(千円)	達成度
01	発達支援サポーター養成事業	サポーター養成講座講師謝礼	養成講座参加人数(人)	141 / 607	150 / 626	150 / 626	94.0%
02	発達支援サポーター等派遣事業	サポーター出張旅費	サポーター活動実績(人)	65 / 130	54 / 200	54 / 414	120.4%
		財源内訳	国県支出金	/			
			地方債	/			
			その他特定財源	/			
			一般財源	737 /	826	1,040	
		事業費の合計 (千円)		737 /	826	1,040	
		人件費 (千円)		64,278		106,274	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	0.3	0.5	0.5	0.5	0.8	
会計年度任用職員	0.0	0.2	0.2	42.0	61.0	

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	発達支援サポーター養成事業	発達障害について学び、身近な支援者として活動できる人材育成の充実をはかるため、養成講座の参加実人数を指標とする。	養成講座の受講により市民の発達障害への理解が進むことで、地域全体としての子育て支援の充実を図ることができる。	会場の確保が難しく、参加人数を制限するため、参加希望者全員を受け入れることができなかった。
02	発達支援サポーター等派遣事業	養成した支援者が実際に地域で支援者として活動できる仕組みを構築し、実績を評価する必要があるため、サポーターとして活動した実人数を指標とする。	地域における身近なサポーターの育成により、地域全体における子育て支援体制の充実を図ることができる。また、特別な支援を必要とする子どもの地域支援の充実を図ることができる。	令和5年度から鎌倉市の会計年度任用職員に制度変更し、学校とサポーターのマッチングについては改善した。幼稚園・保育所等のサポーター確保が課題である。

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	2 外部化に向けて検討できる事業がある
	関連・類似する事業の統合はできないか	2 統合に向けて検討できる事業がある
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-2 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済
		協働実施済の場合のパートナー 一般社団法人 星と虹色なこどもたち

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	☒ 拡充 ☐ 改善・変更 ☐ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止・廃止
サポーターの活動の場として、幼稚園・保育所・認定こども園等就学前の子どもの過ごす場における実施対象園を拡充し、就学前から就学後も継続して地域で身近な支援者のサポートを受けることが可能となるよう取り組んでいく。	

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	サポーター養成講座参加実人数						単位	人
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
発達障害について学び、身近な支援者として活動できる人材育成の充実をはかるため、養成講座の参加実人数を指標とする。	目標値	150	150	150	150	150	150	
	実績値	110	94	72	141			
	達成率	73.3%	62.7%	48.0%	94.0%	0.0%	0.0%	

指標(単位)	かまくらっ子発達支援サポーター活動実人数						単位	回
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
養成した支援者の実際の活動状況を把握することで、サポーターの活用状況を把握するため。	目標値	35	40	44	54	54	54	
	実績値	28	37	50	65			
	達成率	80.0%	92.5%	113.6%	120.4%	0.0%	0.0%	

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名	鎌倉市							
他市実績								

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	逗子市において同様の講座の実施実績はあるものの、逗子市における対象者や事業の位置づけが実施年度により異なることから、他市実績としての比較対象と考えにくく、ベンチマークとなる比較値はない。
--------------------------	---